

理科の授業の生徒交流における授業改善

～生徒交流を通して自分の考えをもたせる指導～

小泉中学校 理科 矢野 隆彦

1 授業改善の視点

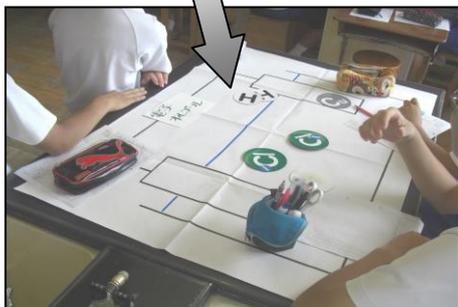
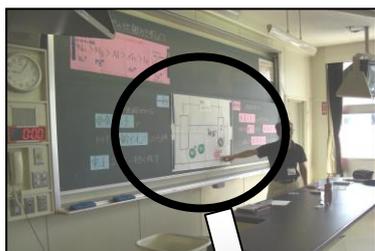
ふかめるⅡ「場の設定及び多くの生徒の発言」に関わって

- ・ 全体交流における、生徒に考えを持たせ、発言を促す指導の在り方

2 具体的な実践

(1) 教材・教具の工夫

授業で提示する資料と同じ大きさのイオンモデルを各班に準備し、グループ交流の教具として活用した。



机全体を使ってモデルを操作できるような交流の場を設定することで、仲間の考えをグループ全体で共有し、思考を深めることができた。

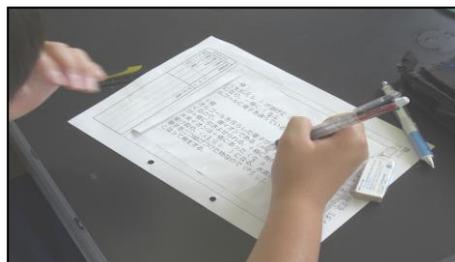
グループについては、生徒1人1人の技能を分析し、理科の学習を行う専用の班を編制した。グループのリーダーには、考えを話したり、説明したりする活動が苦手な生徒を支援する役割を与え、自分

の力で仲間に伝えることができたという満足感を味わえるようにした。

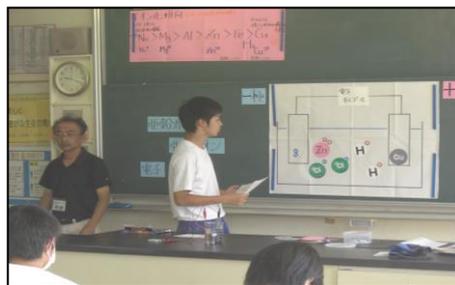


(2) 自分の考えをもたせる工夫

単位時間の終末に向けてまとめを行う際に、うまく書けない生徒にヒントカードを渡し、電子を生み出す様子を説明できるようにした。



グループ交流では、学習内容の確認のため、1人1回説明し、全体交流では代表者や代表グループに説明させた。



3 実践を振り返って考えられること

生徒同士の学び合いを充実させるための教具を活用したり、自分の考えを説明する機会を経験させたりすることは、生徒の思考を深め、話す力の向上に有効的であると考えられる。